



城陽おひさまプロジェクト news

第1号 2012年12月1日 市民共同発電をひろげる城陽の会

市民共同発電をひろげる城陽の会（以下、「会」）の会員の皆さんに初のニュースをお届けします。「会」は9月16日発足以来、太陽光発電設備を設置する場所の選定や要請、設置準備の実務、会員の拡大などに事務局メンバーを中心に組みんでまいりました。

ひろがる会員の輪をさらに

会員は発足時の30名から現在50名を超え、市民共同発電運動の輪の広がりが実感されます。太陽光発電のソーラーパネル設置を通じて、自然エネルギー利用を实践し、生活に欠かせないエネルギーを少しでも自給することで、原発ゼロ・CO₂を排出しない温暖化を防止する社会の実現をめざす仲間の輪をさらにひろげましょう。

○原発のない社会を実現したいと思っている方

○できるだけCO₂を排出しない社会をつくりたいと思っている方・・・

このような思いを持っておられる方が皆さんの身近に居られると思います。“思いを実現するチャンス”とぜひお声かけください。

パネル設置候補情報の提供を

「会」ではソーラーパネル設置箇所を複数ヶ所検討してきました。そして城陽市寺田の教育関係施設の屋根に設置する方向で関係者との協議を進め、9月下旬に市内業者1社・市外業者2社に見積をお願いし、11月には当該施設の屋根も実際に見るなかで見積金額が提示され、業者選定に着手していました。しかし、契約の直前に屋根主様から“やむを得ない事情により設置については断念”される旨のご返事があり、この場所でのパネル設置が出来なくなりました。

会員の皆様には設置協力の募集説明会のご案内ではなく、このようなお知らせになったことにつきまして事務局として大変申し訳なく思っています。しかし、契約直前までの各種の協議や検討で得た経験や各地の市民共同発電の団体との交流などから学んだノウハウなどは大きな財産と考えています。京都グリーンファンドの大西事務局長さんからも「紆余曲折いろいろあります。これを糧に頑張ってください」との激励も頂いているところです。

11月には待望の女性事務局員を迎え、体制の強化がすすんでいます。会員の皆さんからの「屋根を使ってもいいとの話を聞いた」など、どのような情報でも結構です、事務局までお寄せください。

衆院選挙は再生エネ飛躍のチャンス

衆議院が解散され、今月16日に投開票が行われることとなりました。この選挙は私たちにとって再生エネルギーへの政策転換・即時原発ゼロへ大きく舵を切ることが出来る絶好のときを迎えているといっても良いでしょう。日本の未来に展望を開く再生可能エネルギー普及を大きく飛躍させるかどうかは16日の投票行動にあるのではないのでしょうか。会員の一人ひとりの方が主権者として、本当に再生エネ・即時原発ゼロを実現する候補者（政党）は誰かを深く考え、投票されますよう強く呼びかけます。

市民共同発電所のトップランナー てんとうむし1号（滋賀県湖南市石部）

なんてん共働作業所の始業風景。朝の体操を行う社員の後方、作業所の屋根に共同発電所の太陽光パネルが輝く。（湖南市石部南6丁目）

つかうから、つくるへ。エネルギーのあり方が大きく変化しようとする中、注目を浴びるのが、太陽光発電をはじめとするクリーンで持続可能な自然エネルギー。湖南市では市民有志が平成九年から、太陽光パネルによる共同発電所「てんとうむし1号」を稼働させ、原発に依存しない暮らし方を探ってきた。



市民有志が共同出資 太陽光発電こつこつ15年

市民共同発電所の太陽光パネルが設置されているのは、障がい者の自立を支援する溝口弘さん（64）が代表を務めるなんてん共働サービスの屋根の上。平成九年、二十五人が共同出資し、太陽光パネル約二十枚が取り付けられた。

一時間あたり発電量は三・七五キロワット。晴天の平日は事務所で消費し、雨天は関電から電力を購入、休日の余剰電力は同社へ売却する。

今でこそ市民が共同出資する小規模の発電所が広がりつつあるが、十五年前はあまり前例のない取り組みだった。初めてを耳にしたのは平成八年春。知人が突然押しかけてきて、熱心に説明した。

はじめは大規模発電所の先入観しかなかったため、「何のことかさっぱり分からなかった」と困惑したが、半年間、説明を受けるうちに、ぼんやりと輪郭がつかめてきた。

溝口さんが目指すまちづくりは、「命」と「自立」をテーマに、小規模な事業所やグループホームを地域で分散させ、障がいのある人もない人も共に地域で働き、その人らしく自立して生活できるまちづくりだ。

一方の太陽光エネルギーによる市民共同発電所も、小規模な自然エネルギーというリスクの少ない点で「命」が根底にあり、自ら発電することで、原発に依存しない「自立」を目指していた。

共感を覚えた溝口さんは、出資者を募り、市民共同発電所「てんとうむし1号」を設置。五年後には第2号を関連のグループホームに設けた。

溝口さんは、共働事業所やグループホームなどの事業所の運営の傍ら、市民共同発電所の設立・運営に関わった経験から語る。

「福祉も、地球温暖化防止・脱原発も、もう一つの本質は『小規模』ということ。大規模な発電所に頼るのでなく、家庭などの小口電力は、小規模なクリーン発電による、ほどほどの暮らしに転換することが必要と考えさせられた」と。

（滋賀報知新聞 2012/1/3 より）

市民共同発電をひろげる城陽の会

〒610-0121 城陽市寺田今堀 52-106

TEL/FAX 0774-55-4190

事務局（大見、開沼、加藤、草深、古家野、杉浦）